

ごみブクロウが解説する 舞鶴市廃棄物減量等推進審議会

舞鶴市のごみを減らすためにはどうしたらいいかを様々な立場の人に議論してもらおうのが「舞鶴市廃棄物減量等推進審議会」だよ。
 今期(平成28年10月から2年間)の委員は、大学教授や事業者、市民などさまざまな分野を代表する12名。会長はごみ減量政策が専門の京都府立大学大学院の山川肇教授に務めていただいているよ。

※審議会は公開で開催しており、誰でも傍聴が可能です。
 会議の開催日程・結果は情報公開コーナー、市ホームページでも掲載しています。



審議会の役割には
 ■行政施策に住民の意思を反映させる
 ■専門的な知識や技術の導入
 ■多様な立場から議論するなどがあるんだよ

【諮問】…意見を求めること
 【答申】…意見を述べること
 と読み替えれば分かりやすいよ

審議会の経過

平成28年10月
 審議会設置

【審議会での検討項目(諮問内容)】

循環型社会の形成に向けた新たな取り組みについて
 ① 容器包装リサイクルに関する取り組みについて
 ② リデュース・リユースの推進について
 ③ ライフスタイルの変化や高齢化などへの対応について

審議会委員 (敬称略、五十音順)

- | | |
|---------|---------|
| ● 青山 公三 | ● 足立 徳仁 |
| ● 内海 志伸 | ● 尾上 亮介 |
| ● 木谷 絵美 | ● 品田 正明 |
| ● 田中 小満 | ● 谷口 英子 |
| ● 西山 隆成 | ● 藤原 貴子 |
| ● 森 志乃ぶ | ● 山川 肇 |

第1回・第2回・第3回

舞鶴市のごみ処理状況の確認や課題の整理。



平成29年4月 市長から審議会へ諮問



多々見市長(左)から諮問を受ける山川会長(右)

諮問①

「容器包装リサイクルについて」(第4回・第5回)

ここではプラスチック製容器包装の資源化について議論。



平成29年8月 中間答申



多々見市長(左)に中間答申書を提出する山川会長(中央)と品田副会長(右)

諮問②

「リデュース・リユースについて」(第6回・第7回)

ここでは食品ごみやプラスチックごみ、事業系ごみ、紙ごみの減量などの取り組みについて議論。



今後の予定

諮問③

「ライフスタイルの変化や高齢化などへの対応について」

収集方法や収集回数、排出困難者への対応などについて議論。
 (第8回は3月27日開催予定)

平成30年
 9月頃
 答申

新たなごみの減量・資源化の取り組みスタート



委員のコメントを紹介

- ごみを減らすというのは非常に難しいことだと思う。今よりさらに減らそうとすると、何か大きなアクションが必要。
- ごみを減らすために分別を細かくするという考えも分かるが、体が不自由などの理由でごみが出せない人がいることも忘れないでほしい。
- 高齢化が進んでいる。また、地域のつながりもなくなってきている。今後は不燃ごみの立ち番を維持していくのは難しいと思う。

委員のコメントを紹介

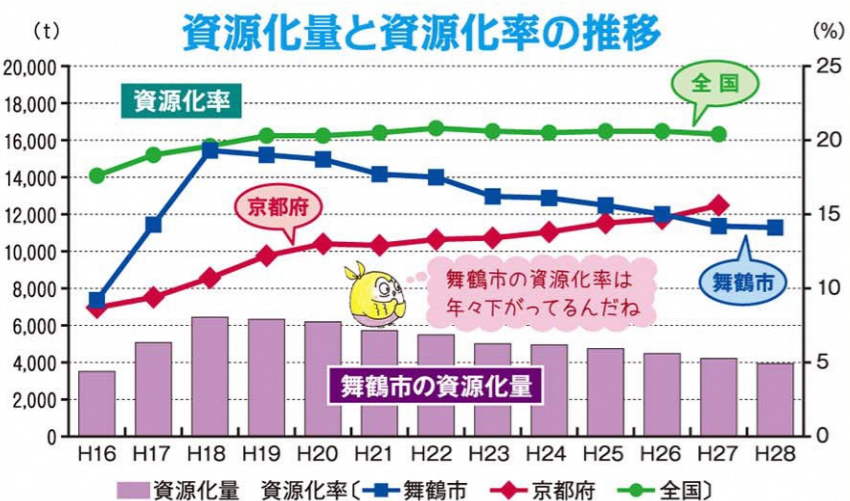
- 3Rの取り組みは、単にお金を安くするためではなく、CO₂削減など環境のことも含めて考えることが大切。
- ペットボトルだけ、もしくは資源物だけ収集回数を増やすなどの仕組みがあってもいいと思う。
- 分別区分を見直す時は、障害者や高齢者に対する細やかな周知や負担軽減等の配慮が必要。
- ごみの問題は身近な問題であり、もっと市民に関心を持ってもらえるように情報発信していくべき。

中間答申の内容

- 1 不燃ごみの「プラスチック容器類」のうち、ペットボトルを単独分別収集することは、資源化率の向上と埋立ごみの削減に有効な施策と考える。
- 2 現在は可燃ごみとして処理しているレジ袋などのプラスチック製包装類を新たに「プラスチック容器類」として分別収集し資源化することは、資源化率の向上と温室効果ガスの削減に必要な施策である。
- 3 新たな分別ルールが市民に定着するよう、市は分かりやすい説明に努められたい。

諮問②:委員のコメントを紹介

- 食品ごみの問題は社会的関心が高まりつつあり、食品ロスを減らすことはごみ減量を進める上で重要。
- レジ袋の減量、さらには有料化に向けて、市民・事業者・行政が連携・協力して取り組みを進める場を設置してほしい。
- リユースの取り組みは、人と人との間に物が介在することで、今までとは違う新たな人と人の繋がりが生まれ、コミュニティが形成されるという効果がある。
- 事業者のごみ減量や分別についても、市民に対する指導や啓発と同じように取り組んでいく必要がある。



3R(スリーアール)とは

取り組む優先順位は

- 1 **リデュース** (Reduce=ごみを減らす)
 - 2 **リユース** (Reuse=繰り返し使う)
 - 3 **リサイクル** (Recycle=資源として再利用する)
- 3つのR(アール)の総称だよ。

なぜ中間答申したの?

舞鶴市は、プラスチック容器類の資源化率が6割と低く、残りを埋立処理していることや資源化の対象となるお菓子袋などのプラスチック製の包装類を可燃ごみとしてしていることが課題で、早急な見直しが必要だったんだ。
 だから、今回は少しでも早く取り組む必要があるということで、3つある検討項目のうち①だけを中間答申としてまとめてもらったんだよ。
 1ページで紹介している分別区分の変更は、この中間答申を踏まえた内容になっているんだよ。



山川肇会長

現在、舞鶴市の資源化率は15%を下回っています。これは市の目標はもとより、全国平均、京都府平均よりも低い値で、その改善が大きな課題です。
 現状を分析すると、プラスチックの容器包装の資源化量が他都市よりかなり少ないことがわかりました。これは他都市では一般にリサイクルされているプラスチックの袋等が対象外になっていること、また市の選別施設の能力の関係でプラスチックの資源化率が低いことが原因でした。そこでまずはこれらの改善を提案した次第です。
 提案した分別方法は標準的なものですので、包装についているマークを見て分けていただければと思います。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。